

## 本事例の基礎データ

|                      |   |        |  |
|----------------------|---|--------|--|
| カテゴリ                 | ICT 及び先端技術を活用した指導方法   |        |  |
| 学校種                  | 小学校   | 事例提供者  | 大田区立梅田小学校  |
| 学年                   | 第3学年  | 教科等    | 社会科  |
| 単元名                  | 身近にひそむ事こ  |        |  |
| 主な ICT 機器            | ・タブレット PC (キーボード付き Chrome OS 機/一人1台)  |        |  |
| 授業の概要                | 身近な地域の危ない場所の資料を読み取ったり、事故発生件数の変化について話し合ったりする活動を通して、事故から地域の安全を守る働きについて学習問題をつくる。 |        |  |
| 「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け | 情報活用  | STEP 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を収集する基本的な方法を知り、実施できる</li> <li>・2、3点の情報を比較したり、関係付けたりして、新たな意味を見いだせる</li> </ul> |

## 本事例における教育の情報化について

|       |  |
|-------|--|
| ポイント1 | <p><b>日常的な一人1台のタブレットの活用</b></p> <p>一人1台の端末を使用し、日常的にアプリケーション（キーボー島アドベンチャー）を利用することでタブレットの活用に慣れさせている。</p> |
| ポイント2 | <p><b>情報収集のためのインターネットの活用</b></p> <p>社会科や総合的な学習の時間等を通じて、調べたい事象や内容を検索し、情報を収集する学習を行っている。</p>              |
| ポイント3 | <p><b>○情報共有</b></p> <p>個人で考えたことやグループで話し合った考えをスクールタクトで共有することで、共通点や違う点に気付いたり、複数の意見を関連付けたりすることができる。</p>   |

## 本単元（題材）における指導の流れ

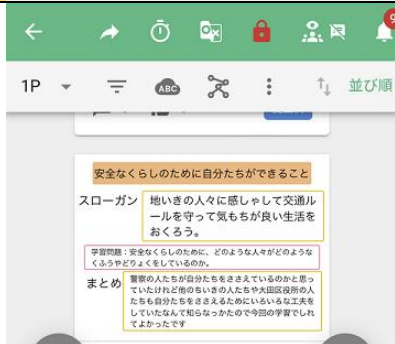
|                  | ●主な学習活動・児童の活動   | ○支援・留意点 ☆評価   |
|------------------|---|---|
| 1<br>★<br>本<br>時 | ●大田区の人口が増えているにも関わらず、事故の件数が減ってきていることについて関心をもち、学習問題を見いだす。 | 「人口の移り変わり」と「年間交通事故発生件数」の最新のデータを＋検索（プラス検索）を活用してインターネットで調べる。<br>☆身近な地域の危ない場所や事故発生件数の変化に着目し、問いを見いだしている。<br>【思考・判断・表現】            |
| 2                | ●学習問題について予想し、調べること・調べ方・まとめ方を話し合う。                       | ☆事故から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっている。【主体的に学習に取り組む態度】  |
| 3                | ●わたしたちの町には、安全を守るためにどのような施設や設備があるのだろうか。                  | ○身の回りの施設や設備を予想させることで、どのような施設や設備があるのか、関心をもたせることができる。<br>☆施設や設備の配置、それらの働きについて理解している。【知識・理解】                                     |
| 4                | ●警察の人々や地域の人々は、安全を守るためにどのような取組をしているのだろうか。                | ☆警察署は、関係機関と相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人と協力して事故の防止に努めていることを理解している。【知識・技能】<br>☆地域の人々は、関係機関と協力して事故の防止に努めていることを理解している。【知識・技能】  |
| 5                | ●学習問題のまとめをする。   | ○今までの学習が記録されたノートを見返して、学習を振り返る。第1時で考えた学習問題に対応したまとめの文をつくれるようにする。<br>☆連携・協力している関係機関の働きを結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きについて考えている。【思考・判断・表現】 |
| 6                | ●安全を守るために、自分たちにできることを考え、標語にまとめる。                        | ○標語の作り方の例を示すことで、標語のイメージをもたせる。<br>☆学習したことを基に、事故から地域の安全を守るために自分たちにできることを考えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】                               |

## 本時の流れ

| 段階  | ●主な学習活動・児童の活動  | ○支援・留意点 ☆評価 ■資料   |
|-----|--|---|
| 導入  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●これまでの生活の中で経験した事故や危なかったことについて話し合う。</li> <li>・事前に行ったアンケート結果を基に、事故のおそろしさや問題意識について話し合う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に行ったアンケート(Google Forms)結果を基に話し合いを行うことで、事故のおそろしさを実感させ、問題意識をもたせる。</li> </ul>  |
| 展開  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度までの人口の移り変わりと年間交通事故発生件数の事故のグラフを見て、事故発生件数が減少している理由について全体で話し合う。</li> <li>・「人口の移り変わり」と「年間交通事故発生件数」で、副読本には載っていない最新のデータを+検索(プラス検索)を用いてインターネットで調べる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p><b>大田区の人口は増え続けているのに、交通事故発生件数はどうして抑えられているのだろうか。</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は増え続けているのに、なぜ、事故発生件数は抑えられているのかについてグループで話し合う。</li> <li>・各グループの考えを全体で共有する。</li> <li>・考えたことを基に、全体で学習問題をつくる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■【副読本「わたしたちの大田区」P67の「人口のうつりかわり」と「大田区の交通事故発生件数」のグラフ】を活用する</li> <li>○検索語句に悩む児童がいることが考えられる。「人口」の検索は授業者と一緒に行う。「交通事故発生件数」は自分の力で調べるよう伝える。意図する情報が見つけられない児童には、個別に声掛けをする。</li> <li>○令和3年度は、前年より事故発生件数が増加しているので、減少しているではなく、抑えられているという言葉を使用するようにする。</li> <li>○各グループの代表者が、スクールタクトに入力するよう伝える。他の児童は、代表者が入力したら、スクールタクトを開き、別のグループと見比べるよう伝える。</li> <li>☆身近な地域の危ない場所や事故発生件数の変化に着目し、問いを見出ししている。<br/>【思考・判断・表現】</li> </ul> |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学習問題を確認する</li> <li>●次時の見通しをもつ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○次時では、学習問題を解決するための計画を立てることを伝える。</li> </ul>   |

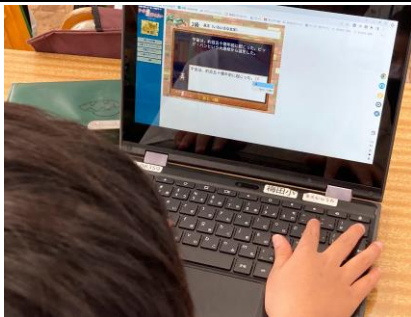
## 授業の実際

### 【ポイント1】 日常的な一人1台のタブレットの活用



パスワードを設定し、一人1台の端末を利用している。朝学習等を活用してアプリケーション等（まなびポケットやキーボ-島アドベンチャー）を日常的に使用し、操作に慣れさせている。

### 【ポイント2】 情報収集のためのインターネット活用



社会科や総合的な学習の時間等を通じて、調べたい事象や内容を検索し、情報を収集する学習を行っている。本単元においても、インターネットの特性を生かした情報収集を行い、社会的事象をとらえるために活用する。

### 【ポイント3】 情報共有



個人で考えたことやグループで話し合った考えを、スクールタクトなどで共有することで、共通点や違う点に視覚的に気付いたり、複数の意見を結び付けたりできる。考察やまとめの学習において、これらのアプリケーションを有効的に活用している。

## 今後に向けて

- 児童の話合い時間を十分に確保するために、導入のアンケートを削減したり、調べ学習の検索場面を教員のみが実施して見せる学習活動に変更した。授業のねらいを明確にしたことにより、児童からねらいに即した多くの考えを引き出すことができた。
- スクールタクトは児童の考えを共有するために有効であった。児童のタイピング技能がある程度身に付いていることが前提である。今後も、3年生の早い段階で、タイピングに取り組むことを継続したい。